



# 鶴の便り 鶴の便り

## 平成二十五年度 事業終了!

夕鶴の里の事業に、多くの方々のご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございました。  
平成二十五年度の主な事業・関連事業の参加人数は、次の通りでした。

- ◇第十四回「語り部養成講座」  
6月～9月  
(小学生五名、大人三名受講)
- ◇第十一回民話の「語り駅伝」  
7月7日(日) 九十名参加
- ◇第十五回「子どもまつり」  
(会場：沖郷防災センター)  
9月29日(日) 四十名参加
- ◇昔のあそび体験  
5月・7月・9月・11月・1月  
合計八十一名参加

## 夕鶴の里資料館報

平成26年3月20日

第39号

発行 夕鶴の里

TEL 47-5800

### ◇第十四回「民話まつり」

10月6日(日)

ゲスト：立石憲利氏(岡山県)

百五十八名参加

### ◇関連事業

#### ◇第四回

「おきたま語りフェスティバル」

(会場：置賜総合文化センターホール)

百三十名参加

#### ◇ふるさと講座

(会場：夕鶴の里・結城記念館)

第一回 7月13日(土)

大友義助氏 三十一名参加

第二回 8月10日(土)

佐藤 晃氏 二十一名参加

第三回 9月14日(土)

多勢久美子氏 五十四名参加

第四回 10月19日(土)

安岡正泰氏 四十六名参加

第五回 11月23日(土)

澁澤寿一氏 三十三名参加

平成二十六年度も、今年度の事業の反省を活かし、より良い事業を展開していきますので、皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

# 入館料が変わります!!

大人(個人) 310円 → 320円

大人(団体：15名様以上) 260円 → 270円

小中学生(個人) 100円(変更ありません)

〃 (団体：15名様以上) 50円(変更ありません)

※教育を目的として入館する場合、身障者等の場合は無料になります。

4月より

## 夕鶴の里(貸館)

### 使用上のお願い

- ◇使用の際は事前に夕鶴の里に使用申請書を提出してください。
- (鍵の施錠の仕方をしっかりと確認ください)
- ◇使用時に出たゴミは、各自責任をもってお持ち帰りください。
- ◇使用後は必ず日誌に記入してください。
- ◇電気・冷暖房は必ず消してください。
- (トイレ・玄関灯の消し忘れにご注意ください)
- ◇調理室の水道を利用した際は、必ず水抜きを行ってください。(凍結防止)
- ◇使用後の施錠はしっかりと行ってください。

## ありがとうございました

多勢まささんが三月末をもって、民話会ゆうづるを退会されます。  
多勢まささんは、民話会ゆうづるが発足された平成三年より、マネージャー・会計としてご尽力いただきました。  
まささん、長い間、本当にありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

# 民話会ゆうづる 会員紹介

今回は、民話会ゆうづるのもう一人の副会長であります菅野敏子さんをご紹介します。

Q、民話会ゆうづるの会員になったのはいつごろですか？また、そのきっかけはなんですか？

A、菅野

夕鶴の里がオープンした年、勤務していた漆山保育園に川合久男さんがいらして、入会を勧められました。

Q、どんなことをするのか、少々不安でした。

A、菅野

先輩方の語りや資料に基づいての勉強会、そして武田正先生のご講義を受講し、伝説民話や地名の由来等、いろいろと民話の奥深さがわかってきたことが良かったし、又、みんなの前で語りをし、伝えていけること。

Q、語り部をして一番嬉しかったことをあげるとしたら？

A、菅野

勤務が長かった”井の中の蛙”の私が民話を通して老若男女？の仲間と出会えたこと。

民話を聴いて下さったお客様に「方言って温かくていいですね」と言っていた時、本当にうれしいし、”おもしろいなく”です。

Q、昔話とは菅野さんにとって何ですか？また、好きな民話は？

A、菅野

民話は私たちへの祖先からのメッセージを込めたすばらしい贈り物だと思えます。それをこれからもずーっと絶やすことなく後世に伝えていく役目だと思っています。私自身、民話に出会えたこと、無形の財産であり一生の宝です。

「白童湖の琴の音』『真心の一文銭』かな、”おちのある語り”も好きです。

Q、語りを通して、大切にしている事、物を教えてください。

A、菅野

“また聴きたい”と思ってもらえるよう感謝を忘れず、お・も・て・な・しの心を大切に！

民話に関する著書と民話集。大事なものです。

Q、最後に、今思っていること。何でも……。

A、菅野

語り部として語るチャンスをもつと増やしていけたら……。

南陽市には、他に類を見ないすばらしい語り部ホールがあることを誇りに思っています。



「菅野敏子さん」

## 漆山地区 地名伝説集

### 〈三堀観音と鶴舞田〉

むかし、むかし。この辺が上杉様のご領地になった頃の話なんだけど。

江戸のお城で、殿様方が、それぞれにご領地の自慢話を始められたんだけど。

上杉の殿様、影勝様は、自分の領地には、鶴がいっぱい飛んでくる話をなされたんだけど。ほかの殿様から、「そげにいっぱい居るのなら將軍様に献上したらどうか」となり、話の弾みで、影勝様は、「それはよからう」と期限を定めて鶴を献上することになり、このことを早速、国元のお家来衆に伝えました。

ところが、その年に限って、鶴は一羽も飛んで来なかったんだけど。献上の期日は来るし、まだかまだかと、上方の殿様から催促は来るし、ご家来衆はただ気をもむばかりで、困ったんだ。

そこで、昔から鶴が居ると言う、池黒さ狩人を派遣して、霊験あらたな矢の目の、三堀観音さ、大願をかけられたんだ。

満願の日に、霊験あつて、鶴を捕まえることができて、將軍様にこれを贈り、殿様は喜んで、三堀観音さまにはご褒美のお墨付きを頂戴し、今も宝物として残ってあんなだ。

そして、鶴を捕まえた所を、『鶴舞田』というのが、何時の間にか『鶴巻田』って、言うようになったんだ。

つたなだけ。

とーびんと

※古い記録によれば、伊達の殿様が十一月の末頃に、狩りを行って、鶴を捕ったと、記されております。

未開発の原野が多かったこの漆山に、晩秋の頃、鶴の群れが通り過ぎた光景を見ることができた先人たちは、幸せだったのだろうか。

地名伝説担当編集  
おりはたの里づくり  
推進会議



「鶴巻田」にある説明案内板